

厚岸湖畔におけるアッケシソウの植生及び植生環境の生態学的研究

厚岸町立真龍小学校（北海道教育大学大学院教育学研究科） 内山 博之

アッケシソウの主な分布地域としては、厚岸湖東部及び南部の河川脇である。まとまった群落形成はほとんど見られず、点在した形の植生分布が多く見られた。分布域に行く方法としては、干潮時に湖岸伝いに歩いて行き、そして、いくつもの大小の川を渡らなければならない。または、船を便って目的地近くの湖岸まで行く方法である。

本研究では、厚岸湖岸のほとんど全域にわたるアッケシソウの植生分布を調査した。特に今回は、これまで調査が入ってない別寒辺牛川河口域やトキタイ川奥の風潤湿地まで入って調査することもできた。その結果、アッケシソウは、トキタイ川、東トキタイ川、東梅川、イクラウシ川の両岸に分布が見られた。中でも100m²以上の大群落といえるような場所はほとんど見られず、100m²より小さい群落もしくは点在している状況しかみられなかった。しかしながら大群落とまではいかないが、ある程度の群落として点在しながら見られた場所は、東トキタイ川両岸の猫の沢とトキタイ川右岸の金田崎付近である。

厚岸湖岸に分布するアッケシソウは、能取湖や野付崎のアソケシソウの生育環境と異なり、直接波がこない池状地の淵に他の塩湿地植物と競合しながらの生育が見られる。しかしながら、その場所は、満潮時にほとんどが水没してしまう状況である。

アッケシソウは、大きいもので高さ25cm、幅20cmの生育が見られたが、全体的に20cm以下が多く、生育状況の良いアッケシソウはほとんど見られなかった。気象条件や潮汐、土壌ph、有機物含量等何らかの周りの環境要因が影響しているのではないかと考える。アッケシソウ分布の全体的な傾向として、アッケシソウのすぐそばには、チシマドジョウツナギやシバナ、ヒネウシオスゲ等が競合している。Bel t調査では、湖面から0.5m～1.1mの間に塩性植物分布している。中でも金田崎のアッケシソウは湖面から高さ1m前後のところに多く分布していることがわかった。また、植生地近くの塩水検査からphは、ややアルカリ性であり、塩分濃度もやや低めであった。生育環境では、ヨシが近くまで迫ってきているのと同時に波による浸食、コケ類の繁殖や他の塩性湿地植物との競合により生育環境が狭められている。特に湖岸での砂地が少なく、また、ヘトロ化が著しく、同時に異臭を放っており原因追究及び改善に向けて今後取り組む必要があるだろう。

厚岸湖は、ラムサール条約の登録湿地であり、今後タンチョウや多くの水鳥が棲息する厚岸湖岸（湿地）全体の自然保護をしていくためにも環境改善が必要である。特に北海道絶滅危惧植物に挙げられているアッケシソウの植生地は、周りの環境と微妙な関係の中で生育するのであり、現状の環境のままでは植生地が広がっていくとは考えにくいであろう。